

(仮称)こども歴史体験ゾーン 基本計画(案)

松戸市立博物館リニューアル基本計画（案）

別添資料

目次

第1章 こども向け新展示の創設について

1. 「(仮称)こども歴史体験ゾーン」創設にあたっての基本的な考え方
2. 「(仮称)こども歴史体験ゾーン」における展示と運営の基本的な考え方
3. 「こども歴史体験ゾーン」平面図(イメージ)

第2章 「(仮称)こども歴史体験ゾーン」展示プランについて

1. 「(仮称)こども歴史体験ゾーン」展示プラン図
2. 「やってみよう」基本計画
3. 「たんけんしてみよう」基本計画
4. 「しらべてみよう」基本計画
5. 「みんなでつくろう」基本計画

第1章 こども向け新展示の創設について

1. 「(仮称)こども歴史体験ゾーン」創設にあたっての基本的な考え方

(1) 来館者が博物館と最初に出会う場所

- ・エントランスホールの無料ゾーンに設置します。
- ・だれでも気軽に入ることができ、博物館への興味を引き、その楽しさが伝わる展示室を計画します。

(2) 家族で一緒に楽しめる体験プログラムを提案

- ・こどもや家族、保護者が、「わがまち」である松戸の歴史や文化と一緒に楽しく学べる体験プログラムを開発し、展示します。

(3) こどもたちの自主性を重視する歴史体験

- ・こどもたちが松戸の歴史や文化に自ら興味を持ち、遊びの要素を含んだ体験を通して学べる展示室を目指します。
- ・こどもたちの知る喜びを大切に、新たな発見から自発的(主体的)に学ぶ意欲や力を育てます。

(4) 公園にある博物館の特性を活かした活動

- ・公園のなかの博物館として、21世紀の森と広場の自然環境や千駄堀地区の生活環境を活かした活動を行います。

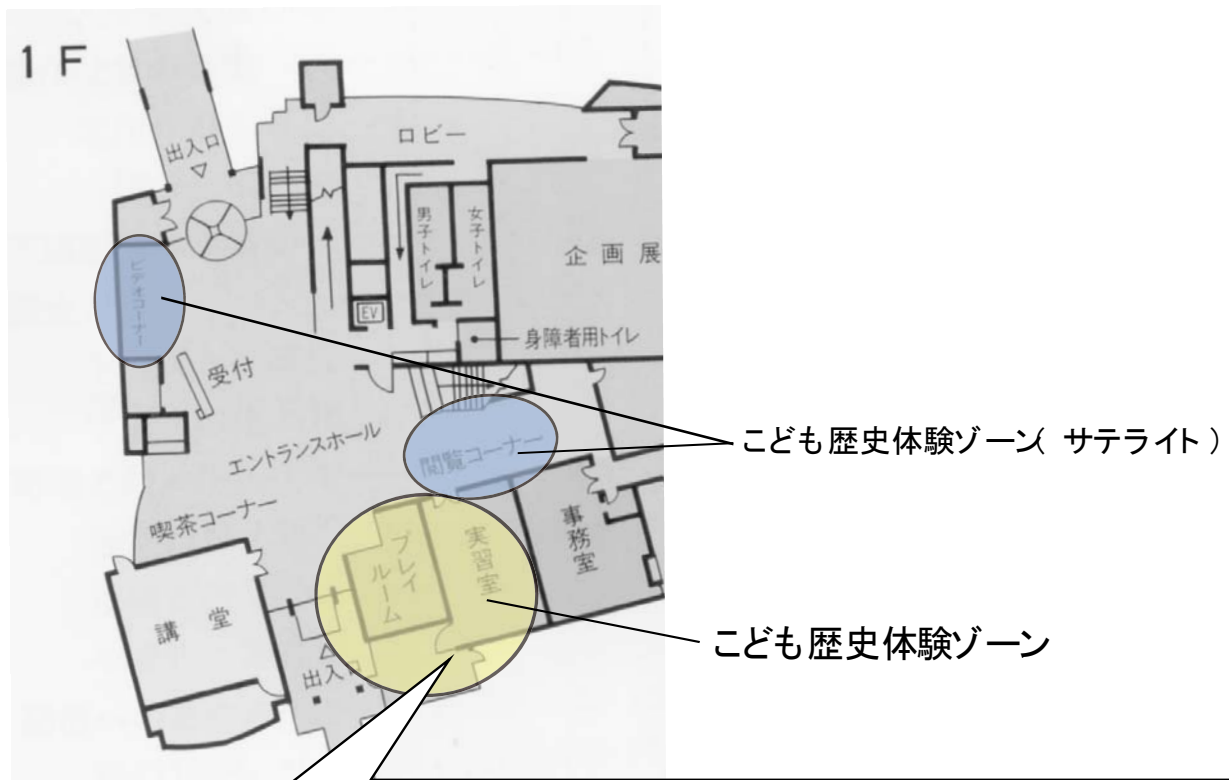
(5) 人々の交流が生まれる広場

- ・博物館友の会に加え、市民歴史サークル、こども関連の団体、地元の農家などの多くの市民の協力を得て、みんなが集える広場となります。
- ・多くの市民の交流拠点としてワークショップ等の様々な活動を行い、こどもたちの豊かな学びの機会を創出するとともに、博物館を活性化させます。

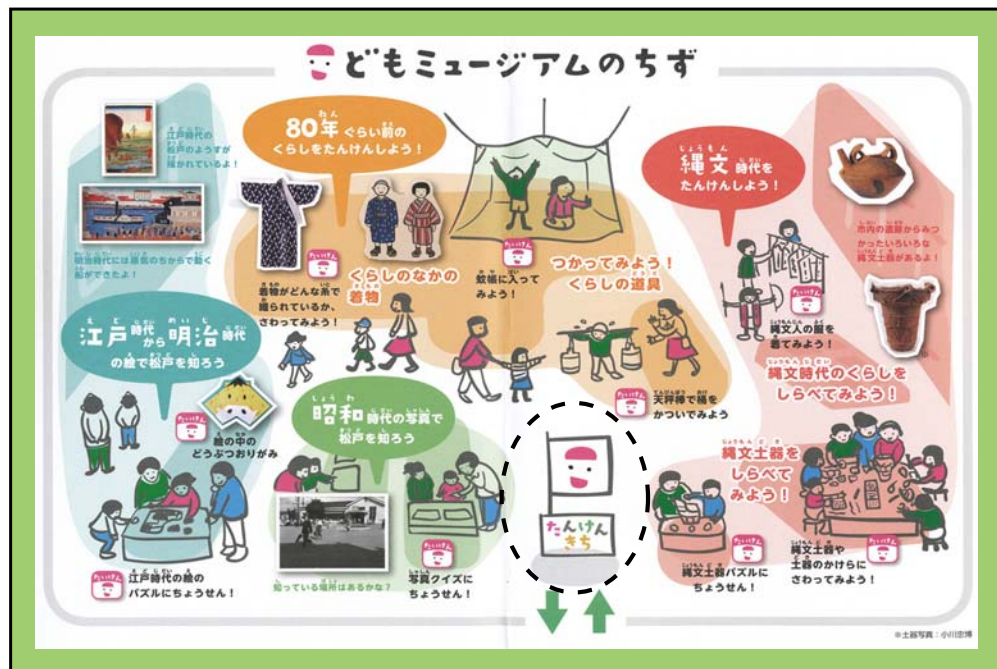
2. 「(仮称)こども歴史体験ゾーン」における展示と運営の基本的な考え方

- (1) 「(仮称)こども歴史体験ゾーン」は、「やってみよう」「たんけんしてみよう」「しらべてみよう」「みんなでつくろう」の4つの機能を持った展示部門で構成し、各展示部門には松戸の歴史や文化にアプローチする多彩なプログラムを用意して、常に新たな歴史体験ができます。
- (2) この4つのセクションは連関性を持ち、こどもたちが自らの興味に応じて自発的で主体的な学びを深められるプログラムの開発を目指します。
- (3) 松戸の歴史や文化を中心に据えたプログラムの開発を目指します。松戸の歴史を表した総合展示室の内容をこどもたちに分かりやすく伝え、理解を深める役割を持ちます。さらに企画展示や体験プログラムと連携し、博物館全体が活性化するよう努めます。
- (4) 来館者がお気に入りの場所として何度も来たくなるような魅力的な体験プログラムの開発や更新、展示ガイドやワークシートなどの仕掛けづくりに取り組みます。具体的には、令和元年度企画展「こどもミュージアムーおとなも楽しい歴史体験ー」における来館者調査のような制作途中評価を実施して来館者のニーズを捉え、展示計画の改善に努めます。
- (5) 小学校などの団体利用に対応する体験プログラムの開発を学校関係者などと共同で進めます。
- (6) 来館者は博物館職員のサポートのもとで松戸の歴史や文化を楽しく学びます。体験アイテムは、体験補助員のサポートを受けて行うことを基本とします。
- (7) 博物館職員による運営のもとに、博物館ボランティアの導入を検討します。また、博物館ボランティアのほかにも、地域住民や各種歴史サークル等、幅広い市民の協力を得てワークショップ等を開催できるよう連携を図ります。

3. こども歴史体験ゾーン」平面図 イメージ)



「こども歴史体験ゾーン」室内 イメージ)



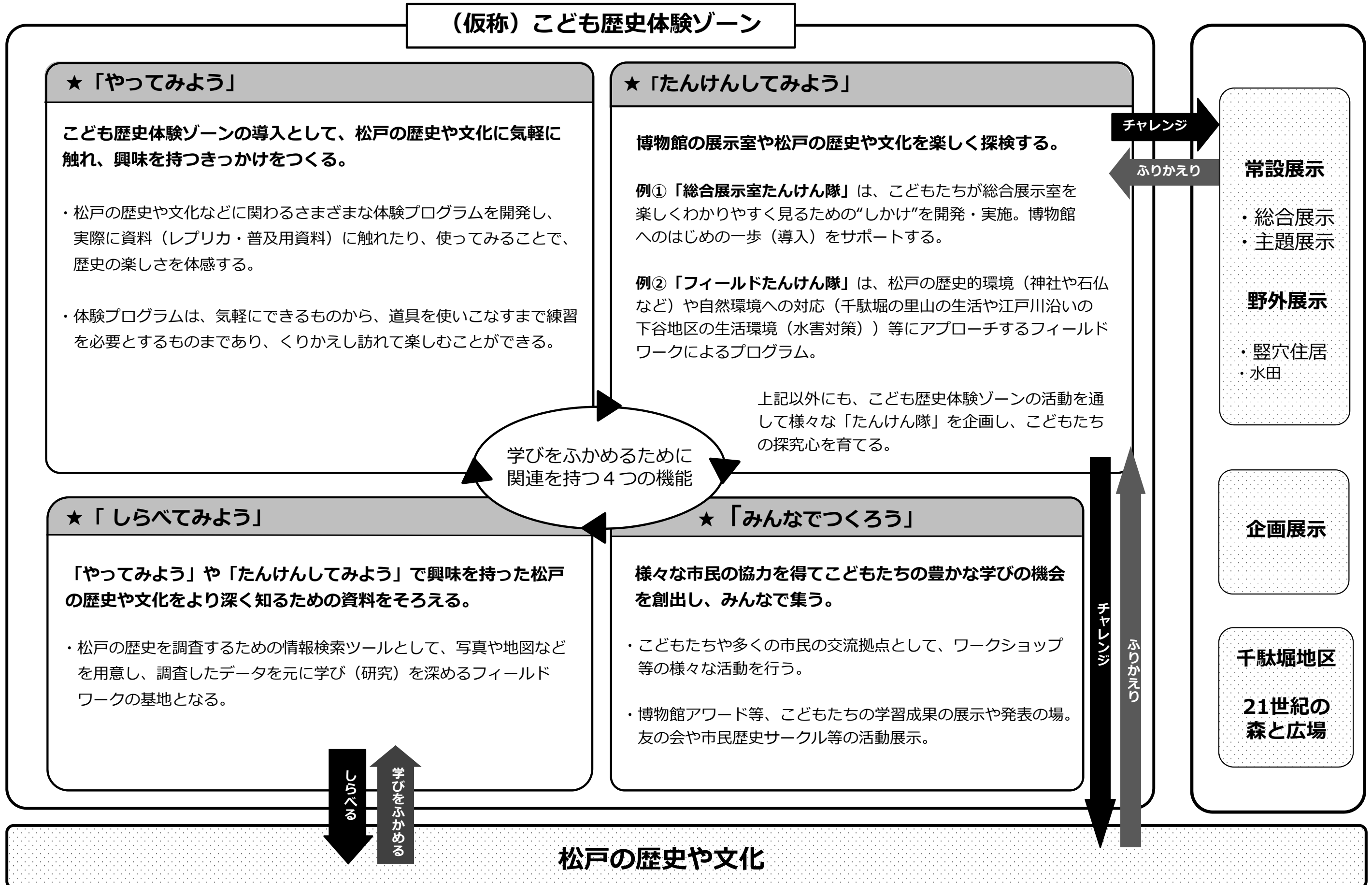
2019年度企画展こどもミュージアム
ワークショップ「たんけんちよう」



たんけんきちの様子

第2章 「(仮称) こども歴史体験ゾーン」 展示プランについて

1. 「(仮称)こども歴史体験ゾーン」展示プラン図



2. 「やってみよう」基本計画

1 ねらい

- (1) 博物館と最初に出会う場所である「こども歴史体験ゾーン」の入口として、気軽に歴史に触れて、興味を持ってもらうためのきっかけをつくる。
- (2) 実物資料を使用して触れる“ハンズオン”を中心とした体験プログラムで構成する。プログラムには、気軽にできるものから道具を使いこなすまで練習を必要とするものまであり、くりかえし訪れて楽しむことができる。
- (3) このセクションを起点に、こどもたちが「しらべてみよう」や「たんけんしてみよう」へと学びを深めてもらうことも意図している。

2 形態・手法

- (1) 資料に手でふれられるハンズオン展示を展示手法の基本とし、資料の露出展示と体験ボックス型展示を併用する。また、一部実物資料のケース展示も行う。(写真①～⑤)
- (2) **露出展示**…棚や壁にハンズオン資料を露出展示する。来館者は興味を持ったものを気軽に手に取って見ることができる。
体験ボックス型展示…箱にハンズオン資料と説明シートを入れて棚に並べておく。来館者は興味を持った箱を自由に取り出して体験できる。(他館事例：写真⑥⑦)

3 運営

- (1) 体験補助スタッフが来館者に対応する。声かけや実演をすることで体験をサポートする。(写真⑧⑨)
- (2) いつでも体験できる申込不要のプログラムと申込制のプログラム（ワークショップ）を行う。ワークショップは現行の「こども体験教室」の成果を組み込んで構成する。(図1)
(例)「親も楽しむ 勾玉づくり」「自分でつくる糸と布」等
- (3) いつでも体験できるプログラムの中には、こども向け・大人向けの他、初級・中級・上級などの難易度のレベルを設定する。(図2)

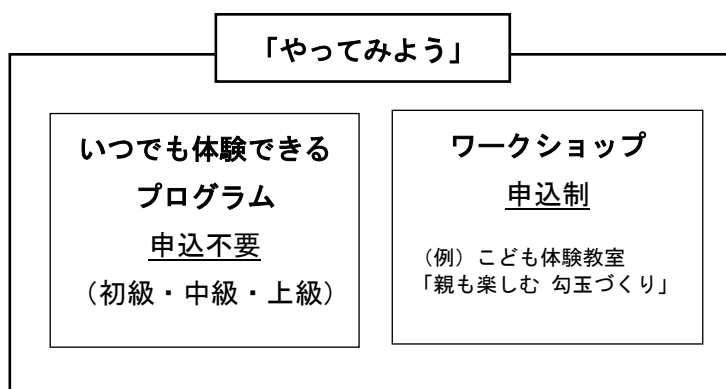


図1

いつでもできる体験プログラムのイメージ(例)

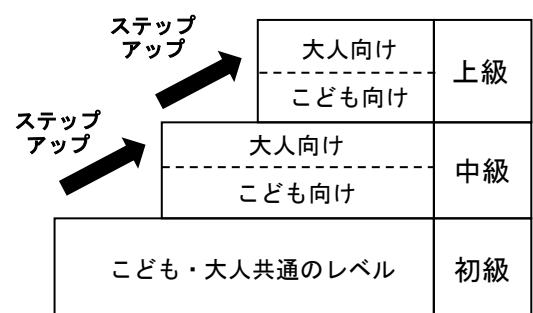


図2

参考写真

2 形態・手法の参考事例

(1) 展示の事例(写真①～⑤) 松戸市立博物館 企画展「こどもミュージアム」(2019年7月20日～9月16日)



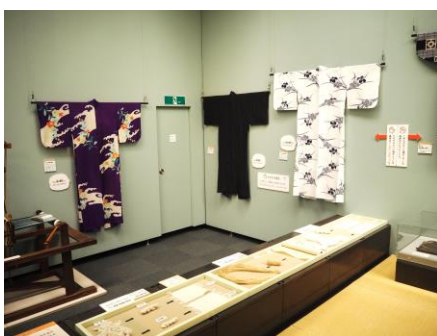
写真①縄文土器パズル



写真②縄文土器レプリカ露出展示



写真③縄文土器ケース展示



写真④着物露出展示



写真⑤はかる道具の展示(枡で小豆を量る)

(2) 体験ボックス型展示の事例(写真⑥～⑦) 足立区立郷土博物館「子どもホール」



写真⑥展示風景



写真⑦引き出し式ボックス(草履)

3 運営の参考事例

体験補助スタッフの役割(写真⑧～⑨) 松戸市立博物館 企画展「こどもミュージアム」



写真⑧台秤で重さを量る



写真⑨着物試着体験

3. 「たんけんしてみよう」基本計画

1 ねらい

博物館の展示室や松戸の歴史と文化を楽しく探検するプログラムを提供し、こども歴史体験ゾーンと展示室や松戸の歴史フィールドを結びつける。

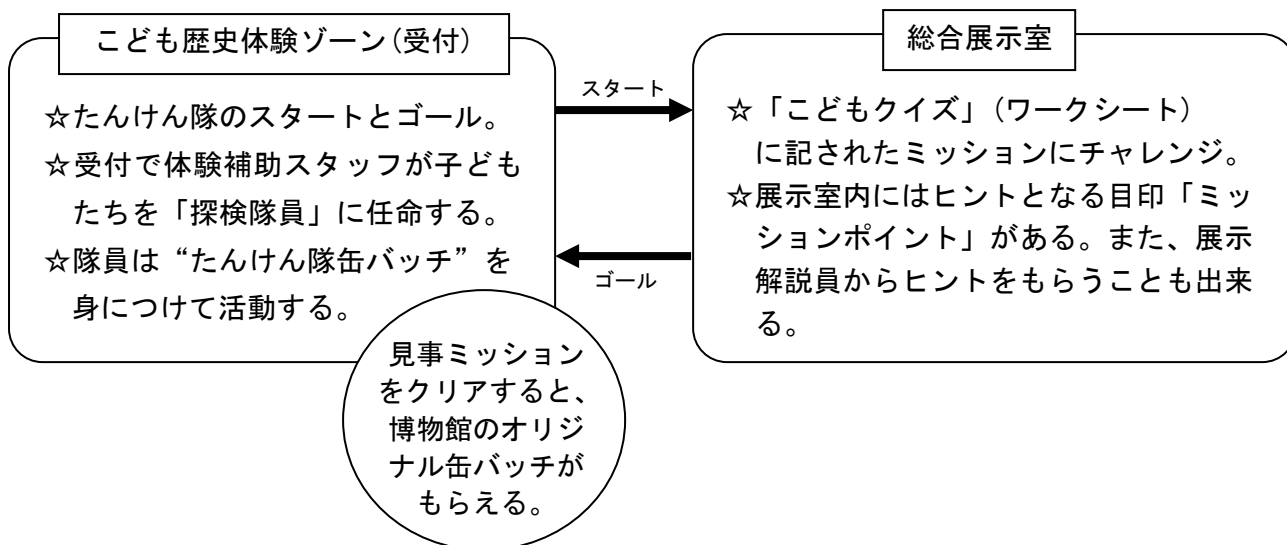
具体的には、総合展示室を分かりやすく見るためのしかけとして「総合展示室たんけん隊」を開発・実施。「博物館へのはじめの一步」をサポートし、博物館の楽しみ方や面白さを伝えるねらいを持つ。

そして、博物館内だけにとどまらず、松戸の歴史フィールドをこどもたちが調査研究するための「フィールドたんけん隊」を学芸員による事前募集型ワークショップとして実施する。

上記以外にも、こども歴史体験ゾーンの活動を通して、様々な「たんけん隊」を企画し、こどもたちの探究心を育てる。

2 利用モデル

(1) モデルケース①「総合展示室たんけん隊」(対象：小学校3年生以上)



<参考写真>



↑ 館蔵資料展ワークシート

← 常設展こどもクイズ

「こどもクイズ」の難易度について
未就学児向けや中学生向けのワークシートも作成する。また、企画展や館蔵資料展のたんけん隊は、企画展示室にサテライトブースを設けて実施する。

(2) モデルケース②「フィールドたんけん隊」(申込制ワークショップ・対象:小学校5・6年生)
予定2日間

① 学芸員による「たんけんレクチャー」(1日目:事前説明)

- ・「たんけんマップ」の説明
- ・総合展示室「谷津の模型」の見学と説明
- ・メモのとりかた・写真の撮り方・スケッチの仕方などを説明



② フィールドワーク (1日目:千駄堀たんけん)

<21世紀公園の中>

- ・公園の森の木の種類を観察
- ・台地際からの湧き水を観察
- ・水路と池のようすを観察
- ・田んぼや畑や花壇のようすを観察

<公園の外(集落)>

- ・お寺(円能寺)・神社(香取神社)などを観察
- ・お墓・道端の石造物を観察
- ・旧家の長屋門を観察
- ・場所の高低、道の曲がり方や幅に注目



③ たんけんのまとめ(2日目)

- ・各自、たんけんで気が付いたところ、新しく分かったことを話す。
- ・たんけんの成果をA3用紙2枚くらいにまとめる。

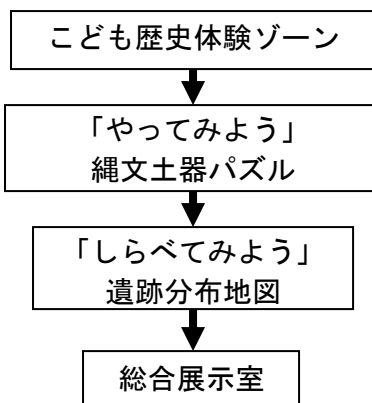
4. 「しらべてみよう」基本計画

1 ねらい

- (1) こどもたちが松戸の歴史を調べるための資料を用意し、展示室や「やってみよう」「たんけんしてみよう」で興味を持った松戸の歴史や文化をより深く知ることができる。
- (2) 学校の学習活動（調べ学習や夏休みの自由研究など）に役立つ資料を用意する。
- (3) 体験補助スタッフは、こどもたちの調べたいことに対して利用の仕方のレファレンスを行う。
- (4) こどもたちを松戸の歴史フィールドワークへいざなう役割を持ち、松戸の歴史や文化に対するフィールドワークの基地となる。

2 利用モデル

- (1) モデルケース①「こども歴史体験ゾーン」から「しらべてみよう」を利用。



会話モデル①：こども歴史体験ゾーンへ来た中学生の女の子が、縄文土器パズルに挑戦中です。

体験補助スタッフ：「今、組み立てているパズルの元になった縄文土器は松戸市内の遺跡で見つかったもののレプリカで、本物は2階の総合展示室で見られますよ。」

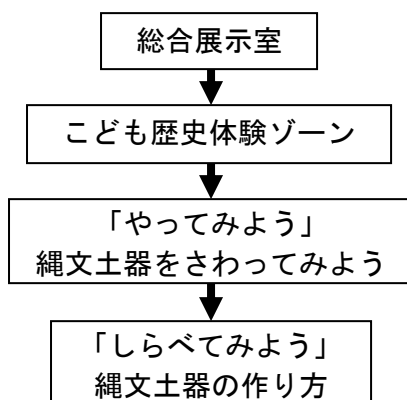
女の子：「松戸の縄文時代の遺跡はどこにあるのですか？」

スタッフ：「地図で見えますか？」

女の子：「私の学校の近くにもあるんですね！この地図面白い！」

…その後、女の子は遺跡分布地図を見てから、総合展示室を見に行くことにしました。

- (2) モデルケース②「総合展示室」から「しらべてみよう」を利用。



会話モデル②：お父さんと総合展示室で縄文土器を見た小学生の男の子が、「こども歴史体験ゾーン」へやってきました。

男の子：「縄文土器って、重いのかなあ？」

お父さん：「ここで縄文土器の本物のかけらがさわれるみたいだよ。」

男の子：「かけらでもずっしり重いね。表面は凸凹してる。」

スタッフ：「そのかけらの表面の凸凹は粘土に縄を押し当ててつけた文様なんですよ。」

お父さん：「縄文土器の作り方が分かる本はありますか？」

スタッフ：「縄文土器の本がこちらにあります。」

…親子は縄文土器に関連する本を読むことにしました。

3 調べるためのアイテム

- ・ 松戸市域を中心とした歴史に関する地図や写真等の資料を用意する。
- ・ 地図や写真資料は紙媒体以外にモニターで検索して見られるとともに、スマートフォンやタブレット端末でも活用できるようにする。

5. 「みんなでつくろう」基本計画

1 ねらい

- (1) 多くの市民の協力を得てこどもたちの豊かな学びの機会を創出し、みんなが集う場所。
- (2) こどもたちや多くの市民の交流拠点として、市民の協力によるワークショップ等の様々な活動を行う。
- (3) 体験教室や博物館アワード等、こどもたちの学習成果の展示や発表の場。
- (4) 博物館友の会や市民歴史サークル等の活動紹介。

2 利用モデル

(1) 活動事例①

企画展「こどもミュージアム」における市民の協力によるワークショップ事例

企画展「こどもミュージアム」土曜ワークショップ（博物館友の会ボランティア）



天秤棒で桶をかついでみよう



風呂敷をつかってみよう



機織りをしてみよう



縄文土器であそんでみよう

企画展「こどもミュージアム」では、会期中、博物館友の会ボランティアによるワークショップを開催した。展示室内では出来ない水を使用した体験プログラム（天秤棒で桶をかついでみよう）や、友の会内のサークル「縄文の会」による縄文土器にふれる体験など、友の会がワークショップの企画運営全般を行った。

(2) 活動事例②

友の会と共催で体験教室を行い、活動の成果の展示と発表の場を設けた事例

こども体験教室「親も楽しむ 米づくりと展示づくりー小学生学芸員になろうー」



田植え



田の草取り

博物館友の会と共催。
友の会メンバーから指導を受けて、米づくりに挑戦。



日誌に活動を記録



かまどでご飯を炊く

活動日には最後に日誌を書いて、一日の作業をふりかえる。
稲刈り→脱穀を経て、かまどでご飯を炊き、みんなで食べる。



活動成果のパネル展示と展示解説会



学習資料展での展示の様子



小学生学芸員展示解説会

米づくりで学んだことや感想をパネルにまとめて、学習資料展で展示。活動の締めくくりは、お客様の前で自作のパネルを使い解説を行う。